

空き家が埋める心の穴

さいたま市の女性の「遺言」受け

さいたま市内で昨年末に住人が亡くなり空き家となった民家が、家族を失った人同士の交流の場として6月に生まれ変わる。計画を進めている一般社団法人「コレカラ・サポート」(千葉県松戸市)代表理事の千葉晃一さん(41)は「都市部で増えている空き家の新たな活用モデルになれば」と話す。

(谷岡聖史)

コレカラ・サポートは二〇一一年四月に設立。要介護状態や闘病中の高齢者の家族に対して有償の相談支援を行い、埼玉県や東京都内を中心に年に約四百世帯を訪問している。

遺産相続などの経済的な悩みへの支援が中心だが、「『あの時こうしておけば良かった』と後悔したり、寂しさに不眠になったりした遺族を目の当たりにしてきた」と千葉さん。「喪失感から立ち直るには、同じ不安や悲しみを持つ人同士が癒やし合う場が必要だ」と感じるようになった。

昨年十二月、相談に乗っていた女性が八十四歳で亡くなった。さいたま市浦和区の一軒家で一人暮らしをしていた稲生敏子さん。かつて茶道教室を開いていた

家族失った人の交流スペースに



敏子さんが茶道教室を開いていた茶室で懇親会を開き、NPO関係者らと談笑する豊さん(右)と千葉さん(右から二人目)＝さいたま市浦和区で

自宅について、「地域の交流の場として役立ててほしい」と書き残していた。家を相続した長男の豊さん(四七)は「自分で住むこともできるが、母は活動的な人だった。困っている人を支える場所として開放したい」と千葉さんに提案し、計画が動きだした。

千葉さんは、高齢化によって増加が懸念されている空き家問題への対応という意義も強調する。亡くなった親の自宅を売却する気持ちになれず、手つかずのまま放置する遺族も多く見えたからだ。

総務省が一三年に行った全国調査で、さいたま市内の空き家は約五万六千三百軒と推計されている。空き家が放置されると、犯罪の誘発や害虫発生などの原因となる可能性がある。一三年度には市民から市に二百三十八件の相談があった。

「すべての空き家に当てはめることはできないが、地域の交流拠点という使い方も可能だと示したい」と千葉さん。敏子さんの家は二階建ての日本家屋。一階の茶室は家族を亡くした人らで交流を深めてもらうほか、二階の和室は図書コーナーを設けたり、展示スペースとして貸し出したりして一般の人でも利用できるようにする。六月三日のオープンを目指している。

春日部の伝統行事に歓声

春日部市の伝統行事「大風あげ祭り」が五日、同市西宝珠花の江戸川河川敷で開かれ、大勢の観光客が「百畳敷き」の大きな大風が舞う姿を楽しんだ。



PR



県三、岡山県一、神奈川県一、約八百六十人を予定している。関西方面は修学旅行で都内観光と周辺民泊をセットで組むケースが多いため、重点的なPR先

ビジネスフロンティア事業部
シールラベル事業部
03-3576-1570
03-5901-2300

県

さいたま市
熊谷市
秩父市
きよ

降水確率0%
朝気温最高25度
南の風

さいたま市330
さい

電話 FAX mail: 熊谷谷生沢越父
通熊越羽所川秩